放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6 年 3 月 27 日　　事業所名：療育センターらいふ　療育センターみらい　療育センターあづみの

		チェック項目	はい	いいえ	検討の余地あり	わからない	工夫している点および課題点	課題等を踏まえた改善の方向性
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	2	1	宿題をする、着替えをするなどの目的に応じたスペースが確保できるとよいと思われます。	状況に応じて別室やパーテーションなどによる空間の使い分けも必要と考えます。
	2	職員の配置数は適切である	9	1	4	0	・基準は満たしているが重度の児が多い日は個別の対応が必要で人員が足りない時もある。 ・支援員の欠席があると厳しいので補充を検討している。	常時、施設基準を超えた職員配置をしていますが、利用生徒の状態や人数によっては、より厚い配置が必要であり、その確保には継続して努めることとします。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	12	0	2	0		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	13	0	1	0		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	0	1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	0	0	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	0	1	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0	2	0	パート職員向けの障害や制度についての基礎知識の伝達、新入職員向けの業務マニュアル等が整備されるとわかりやすさが増すと思われます。	支援手順や業務内容の明文化や共有はさらに進めていく必要があると考えます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	14	0	0	0	送迎時の会話等から、普段の様子を聞き取り、必要に応じて面談し計画作成の参考にしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	1	0	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	0	1	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	2	0	リズム、流れがパターンになっているところもある。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	2	2	0		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	14	0	0	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	0	1	0	時間通りに開始できない日もあり必要事項だけをさっと伝えてしまうこともある。	開始前の情報共有は短時間でもあっても設定し、重要事項の共有に努めたいと考えます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	0	2	0	児童の帰る時間が18時になってしまい十分に時間がとれない時がある。	時間帯の調整により必要な時間が確保できるよう検討をしたいと思います。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	1	0	・記録書式は個人ごとの書式も検討してみてはと思います。個人ごとの書式にすることで前回の状況や時系列での変化が見えやすくなると思われます。 ・各自の状況が分かりやすいよう記録の書式、取り方を検討した。	事業所単位での取り組みを実践し、その結果を共有して全体でよりよい形となるように検討したいと思います。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11	0	2	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	11	0	2	1		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	0	0	0		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	11	0	2	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	0	1	2		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10	1	2	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	12	0	0	1		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	1	0	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	6	2	1		
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	9	3	0	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	0	1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	7	4	1	1		
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	2	0		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0	0	0		

責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0	0	1	毎月、お便りを出し、活動内容や子どもの様子を伝えている。	
	35	個人情報に十分注意している	11	0	0	0		
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	2	0	1		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	0	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	1	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	1	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	0	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0	0	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	0	1		